

英国が国民投票を選択した理由

国民の不満に応えることで政治基盤強化を目指したキャメロン前首相

経済調査部

研究員 廣野 洋太

- ◆ 2016 年 6 月 23 日の国民投票で、Brexit(英国の EU 離脱)が決まった
- ◆ この国民投票を実施したキャメロン首相(当時、以下同)は EU 残留を望んでいた
- ◆ 同首相は、経済の低迷や移民の急増などによる国民の不満に国民投票という形で応えることで、自身の政治基盤を強化するという思惑を持っていた

はじめに

前回は、Brexit の言葉の意味について解説しました。Brexit の是非を国民投票という形で国民に問うたのはキャメロン首相(当時、以下同)ですが、同首相は EU 残留を支持していました。なぜ、キャメロン首相は国民投票という選択をしたのでしょうか。そこには、英国国民の不満に応えることで自身の政治基盤を強化しようというキャメロン首相の思惑がありました。

国民の不満

2010 年に誕生したキャメロン政権は緊縮財政による財政赤字の削減を公約の筆頭に掲げました。その内容は、年金支給開始年齢の引き上げや大学授業料の引き上げ等、国民に痛みを強いるものでした。その一方、英国経済は 2007 年の不動産バブルの崩壊と 2008 年のリーマン・ショックによる低迷が続いていました。2013 年頃から英国経済は回復へ向かいましたが、それまでは経済が低迷する中での緊縮財政ということで国民の不満が高まりました。

経済が低迷する一方で、2004 年以降に EU に加盟した東欧諸国から英国に職を求めて多くの移民が流入するようになりました。東欧諸国は賃金水準が英国よりも低いため、英国国民にとっては低賃金であっても移民にとっては高賃金です。満足して勤勉に働きます。そのため、英国国民の働き口が減り、より低い賃金でなくては就労できないケースが出てきました。さらに、就労ではなく社会保障給付が目当ての移民が一部存在することも国民にとって不満でした。納税期間の短い、もしくは納税もしていない移民のために、自分たちの納める税金が使われることは不公平だと感じたのです。

また、EU は欧州債務危機や難民問題にうまく対処できていない状況があり、その信頼性が揺

らいていました。このような背景から、EUに加盟していることにより得られる恩恵よりも損失の方が大きいのではないかという感情が英国国民の中に広がります。そして、EU加盟継続の是非を国民投票で問うべきだという声があがるようになったのです。

政治基盤の強化というキャメロン首相の思惑

そもそも、Brexitを問う国民投票はキャメロン首相が2013年の1月に宣言したことから始まりました。キャメロン首相は、なぜ国民投票を行うことにしたのでしょうか。そこには、政治基盤の強化という思惑がありました。

英国では長らく2大政党制が根付いており、保守党と労働党中心の政治体制でした。しかし、キャメロン首相が保守党党首として戦った2010年の総選挙では、自由民主党と、EU離脱を党是に掲げる英国独立党(UKIP)という第3極が躍進したのです。結果として、保守党は議会で過半数を獲得することができず、自由民主党と連立政権を組みます。その一方で英国独立党は、2014年5月の欧州議会選挙では得票率26.8%で英国における第1党に躍進しました。

さらに、キャメロン首相の政治基盤は保守党内でも盤石ではありませんでした。前首相自身はEUに問題があることを認めつつ、改革されたEUへの残留を望んでいましたが、保守党内には根強いEU懐疑派が存在していました。保守党内のEU懐疑派は、EU離脱を問う国民投票を行うようキャメロン首相に圧力を加えました。党内だけでなく国民からの要望も強かったことから、これに応える形でキャメロン首相は2013年に国民投票の実施を公言し、2015年の総選挙における公約にもこれを盛り込みました。その背後には、保守党の単独政権樹立と政治基盤強化のために、党外も含めたEU懐疑派の勢いを抑えるという思惑がありました。結果としてキャメロン首相は2015年の総選挙に勝利し、保守党による単独政権の樹立に成功します。

そして2015年11月10日、キャメロン首相は国民投票に先立ち、EU側に英国が考える問題点(移民、主権等)を提示した上で、改革を求める交渉を開始しました。交渉は長期にわたりましたが、2016年2月19日に合意に達しました。キャメロン首相はこの交渉で国民の不満に応え、残留派を勢いづけるつもりでした。結果としてEUから一定の譲歩を引き出すことには成功しましたが、その結果は離脱派からすると不十分なものでした。

それでも、理性的・合理的に考えるように説得すれば国民はEU残留を選択するとキャメロン首相は考えていたようです。しかし、国民の不満はそれを上回るものでした。結果は離脱派の勝利に終わり、キャメロン首相は政治基盤を強化するどころか首相を辞任することになりました。

(次回予告：英国とEUの微妙な距離感)